受注入力、発注入力

受注入力では得意先の受注を入力ます。
発注入力では仕入先への発注を入力し、発注伝票を作成します。
※新規登録・修正・削除、キー操作方法などは「伝票入力画面の基本操作」を参照してください。

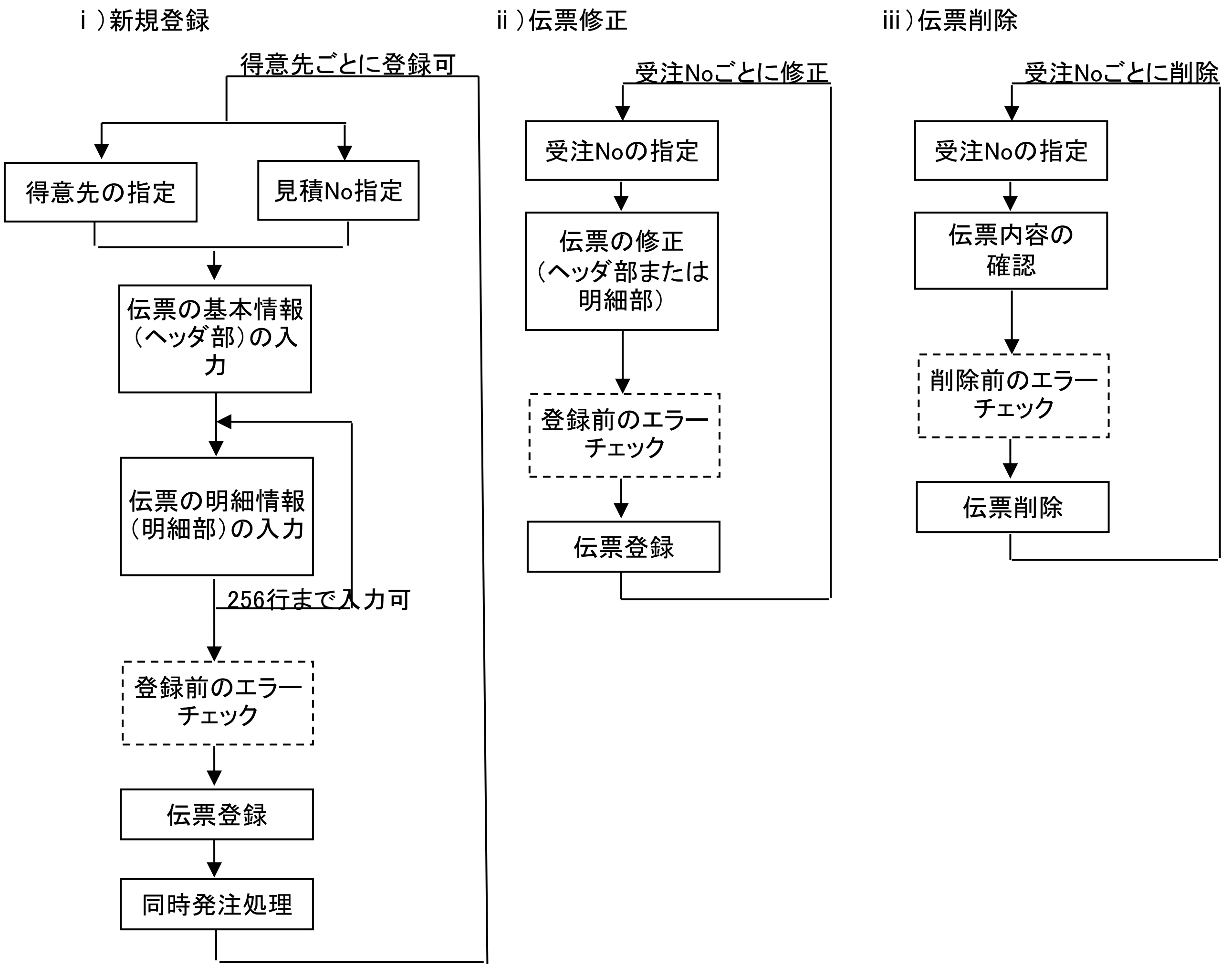
1） 受注入力概要

Point

・受注入力することにより、以下の業務が可能となります。
① 受注から売上へリレー入力することにより、分納も含め、受注残管理が行えるようになります。
② 受注明細表が作成でき、多角度からの受注データ集計や分析ができます。
③ 同時発注処理することで、同じ内容を発注伝票へ複写し、入力する工数を削減できます。
※ただし、同時発注する場合には、伝票機能の受注の設定にて「同時発注する」をONにする必要があります。

・見積Noを指定して受注伝票を作成することで、見積伝票の内容をリレーできます。
・何度でも同じ見積Noを指定して受注伝票を作成することができます。
既に受注リレー済みの明細行は削除チェックがONの状態で初期表示されますので、必要に応じて、削除チェックを変更してください。

・受注入力の操作の流れ



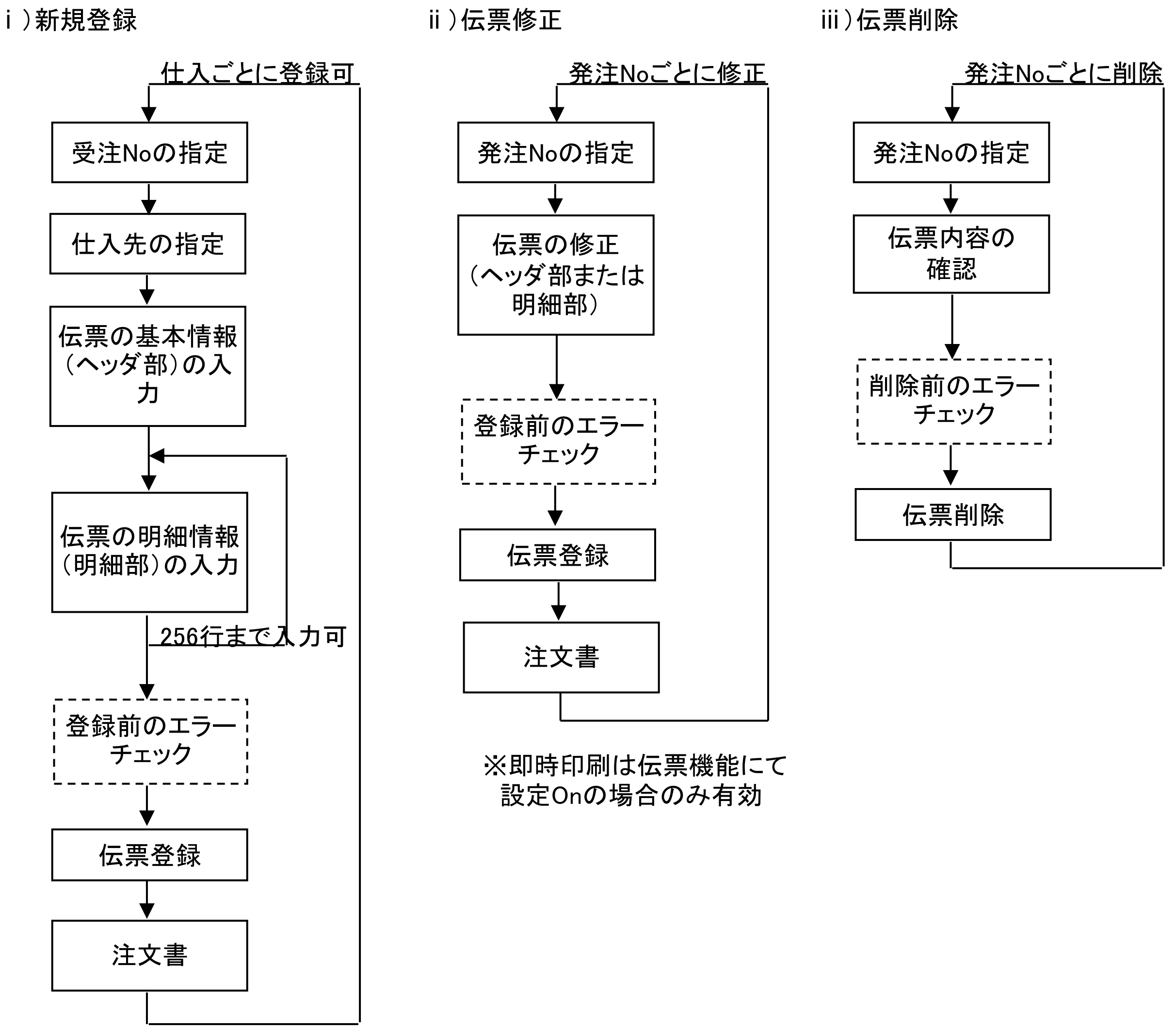
2） 発注入力概要

Point

・発注入力することにより、以下の業務が可能となります。

① 発注から仕入へリレー入力することにより、分納も含め、発注残管理が行えるようになります。
② 発注明細表が作成でき、多角度からの受注データ集計や分析ができます。
③ 同時発注処理することで、受注伝票と同じ内容を複写し、発注入力する工数を削減できます。
　※ただし、同時発注する場合には、伝票機能の受注の設定にて「同時発注する」をONにする必要があります。
④ 受注no指定で発注伝票をリレー入力することができ、その発注をリレーで仕入処理することで、受注と発注と仕入が1 受注noで紐付きます。結果、受注no別原価表にて、受注noごとの実際原価・粗利を集計することができます。
⑤ 発注内容から注文書を発行することができます。

・発注入力の操作の流れ



※即時印刷は伝票機能にて
　設定Onの場合のみ有効
※受注noは受注noごとの原価計算
　させたい場合に指定します。
　同時発注処理にて発注伝票を
　開いた場合は、受注noは入力不要。

※以下の場合は、受注no指定で発注入力はできません。
- 指定した受注noでリレーされた発注伝票が1回でも仕入処理されているとき。
- 指定した受注noが1回でも仕入でリレー処理されたとき。（発注処理なし）
- 指定した受注伝票の全行が同時発注済みであるとき。

3） 画面上部処理ボタンの説明

画面上部のタイトルバーの横にある処理ボタンについて、「伝票入力画面　共通基本操作」を参照してください。

受注入力には共通の処理ボタン以外に以下のボタンがあります。

項目名称	説明
得意先債権情報を表示	得意先（請求先）への売掛債権の内訳画面を表示します。 詳しくは、「9） 与信チェック」 をご覧ください。

発注入力には共通の処理ボタン以外に以下のボタンがあります。

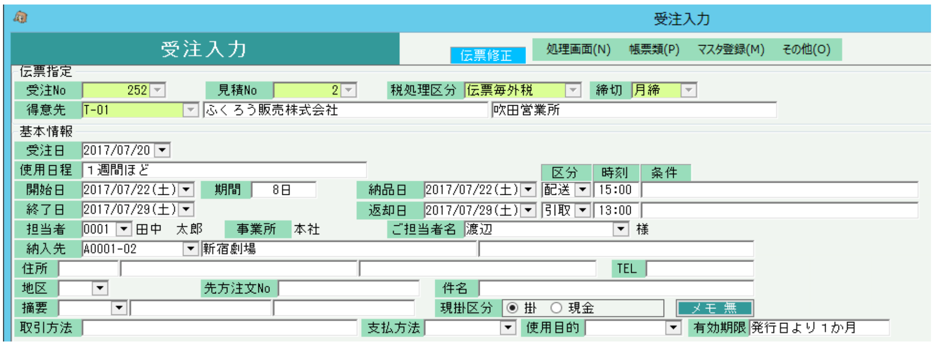
項目名称	説明
仕入先債務情報を表示	仕入先への買掛債務の内訳画面を表示します。 基本的には受注入力画面の「得意先債権情報を表示」と同じです。

4） 基本情報（ヘッダ部） 項目の説明

※受注、発注ともに内容はほぼ同じです。以下、受注入力を例に説明します。

入力画面の上部にある基本情報をヘッダ部と呼びます。
ヘッダ部には、１伝票共通で設定できる項目が表示され、入力することができます。

・項目によっては、上部メニューの「その他」→「伝票設定」から表示/非表示を
設定することができます。
非表示に設定した項目は画面上に表示されなくなりますが、値は設定されます。



項目名称	説明
受注No	受注伝票のNoです。 採番管理登録の設定によっては重複することもあります。
見積No （発注入力は なし）	見積からのリレーで受注する場合、見積Noを指定します。
得意先	受注先の得意先コードを指定します。マスタ検索からの選択も可能です。 （SPACEまたはF4キーで検索画面表示） **Point** ・伝票登録後に得意先を変更することはできません。 変更する場合は「複写」ボタンで別の得意先を指定して伝票複写にて新規作成後、元の伝票を削除してください。 ・得意先名は、得意先マスタの登録内容が初期表示されます。表示後訂正可能です。 ・受注伝票にリレーした場合、変更した得意先名が受注伝票に引き継がれます。 ・コード欄にてF3キーまたは、ダブルクリックでその得意先の登録画面が表示されます。 ※表示された得意先登録画面で内容を変更しても、入力中の伝票に自動的には 反映されません。反映したい場合は再度得意先を指定しなおして下さい。 ・得意先の使用区分を「売上停止」「使用しない」に設定されている得意先は指定 できません。
税処理区分	伝票の税処理区分（請求時外税/伝票毎外税など）が表示されます。 伝票の新規入力時は得意先の税処理区分を表示します。 **Point** ・税処理区分は伝票の新規入力時のみ得意先マスタの値とは別の値を指定できます。 得意先指定後にEnterキーを押さずにマウスで税処理区分をクリックすることで 得意先の税処理区分とは違う税処理区分で伝票を作成できます。 （得意先指定後にEnterキーを押して入力モードに入り基本情報が表示されている状態 になった場合は「取消」ボタンを押下して得意先指定状態に戻ることで税処理区分を 指定できます。）
状況 （発注のみ）	「予約」の場合、発注扱いにはなりません（仕入にリレーできません）が 商品予定にその数が反映されます。

項目名称	説明
受注日	受注日(伝票日付)を入力します。 Point ・受注日には、運用設定で指定した入力期間制限を越える日付は指定できません。 伝票登録時にエラーチェックされます。
開始日	レンタル期間の開始日を入力します。 開始日は必須入力のため、販売品だけでレンタル品が明細行にない場合でも入力してください。 納品日≦開始日≦返却日、終了日(どちらも指定なし可能) でなければいけません。 Point ・開始日～終了日が商品別期間単価の算出もとになる日数です。(発注は関係なし) ・新規入力の場合、受注日が変更されると開始日が受注日同日で再設定されます。 ・開始日を変更すると貸出日数が変わるためレンタル品の期間単価が再計算されます。
終了日 (発注入力はなし)	レンタル期間の終了日を入力します。入力必須ではありません。 指定すると商品別期間単価マスタの共通設定(商品コード指定なし)の期間と掛率が採用され期間名が自動表示されます。明細の期間も同じ期間が初期で自動セットされます。 終了日を指定すると返却日も同日が自動セットされますが、返却日を別日に変更は可能です。 開始日を変更すると貸出日数が変わるためレンタル品の期間単価が再計算されます。 発注入力の場合は、返却日＝終了日として処理されるため終了日の入力項目はありません。 また、仕入管理には期間単価がありませんので、期間掛率の自動採用はありません。
期間	開始日と終了日が指定されると、その日数から商品別期間単価マスタの共通設定(商品コード指定なし)の期間が採用され表示されます。 手入力により変更することもできます。
納品日	商品の引渡日を入力します。 納品日は必須項目です。 開始日を変更すると納品日に開始日同日が設定されます。 入出荷表では受注伝票の納品日に出荷予定として表示されます。 Point ・在庫計算では納品日で商品の在庫が減少します。
納品区分 返却区分	リストから選択します。 選択した項目により、入出荷表で表示されるタブが分かれます。 Point ・「直送」(仕入先から得意先へ直接引き渡す)を選択している場合に限り、受注同時発注すると発注伝票の配達区分にも「直送」が初期設定されます。 ・「直返」(得意先から仕入先へ直接返却する)を選択している場合に限り、受注同時発注すると発注伝票の返却区分にも「直返」が初期設定されます。
納品時刻、 納品条件、 返却時刻、 返却条件	手入力です。 見積伝票からリレーした場合は見積伝票から引き継がれます。 売上伝票にリレーした場合は売上伝票に引き継がれます。
返却日	レンタル期間の返却予定日を入力します。入力必須ではありません。 終了日を指定すると返却日に同日が自動セットされます。 返却日を返却予定日として、各貸出管理系の帳票や返却入力処理で採用されます。 指定した返却予定日は全明細共通設定として採用されます。 予定在庫では返却日(レンタル期間が終了)の翌日に商品が増加します。

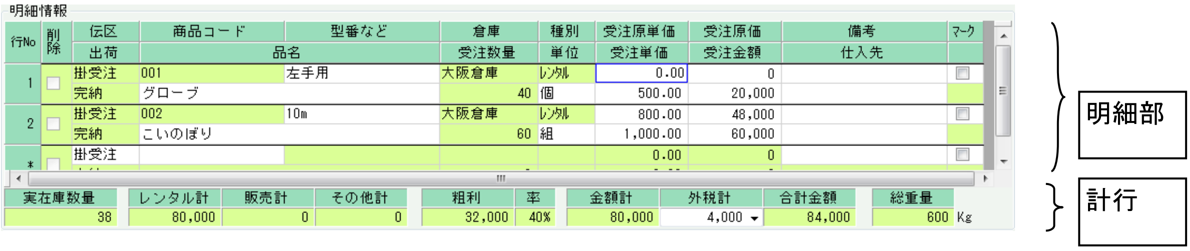
項目名称	説明
担当者	営業担当者を指定します。 コードを直接手入力するか、SapceまたはF4キーにてマスター覧より選択できます。 初期表示される担当者は運用設定の登録内容により異なります。 当伝票がどの事業所の受注であるかは、担当者が所属する事業所で決定します。 事業所名は担当者横に表示されています。 事業所は伝票ごとに保持されていますので、登録後に担当者の所属する事業所が 変更されてもデータにセットされた事業所は変更されません。
ご担当者名	得意先のご担当者名を入力します。
納入先 ｺｰﾄﾞ 納入先名１ ２、〒、 住所1，２、Tel	納入先を指定する。 コード欄ではSpaceまたはF4キーにて納入先マスタ検索して選択可能です。 納入先名や住所などのその他項目は表示後に訂正可能です。 **Point** ・納入先マスタにて、得意先とひもづけした納入先が１件以上登録されている場合、 新規伝票入力では使用頻度の１番高い納入先が自動で初期表示されます。 ・納入先名や住所はマスタから選択せず直接入力することもできます。 ・マスタより選択後に納入先名や住所などを変更した場合、その内容は当伝票にのみ 有効となります。マスタの内容は変更されません。 ・表示されている納入先コードを手入力で削除し、次項目へ進んだ場合、納入先情報 を削除するかどうかの確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックすると 納入先名からTELまでがクリアされます。
地区	地区を指定します。 コードを直接手入力するか、SapceまたはF4キーにてマスター覧より選択できます。 **Point** ・得意先マスタで地区を設定していると新規伝票入力時にその値が初期表示されます。
先方注文No （発注入力は なし）	得意先指定の注文Noを入力します。
件名	件名を入力します。売上リレーすると納品書に出力されます。
摘要 ｺｰﾄﾞ 摘要名1,2	摘要を指定します。 コード欄ではSpaceまたはF4キーにて摘要マスタから選択することができます。 **Point** ・摘要コードを入力せずに摘要名1，2に直接入力することもできます。 ・マスタより選択後に摘要名1，2を変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効となります。 マスタの内容は変更されません。
メモ入力 （ボタン）	伝票ごとのメモを入力することができます。 ボタン押下にてメモ入力画面が開きます。 メモの入力がある場合、ボタンがオレンジ色で表示され、ボタンの横に内容が表示されます。
現掛区分	入力中の伝票の現掛区分（現金売/掛売）を指定します。 新規入力時は得意先の現掛区分が初期表示されます。 現掛区分を変更すると明細部の伝区も現掛区分に合わせて変更されます。 **Point** ・税処理区分が「請求時外税」の伝票の場合、現金は選択できません。 （現金売の場合、その場で精算するので請求時外税というものはないため）
取引方法	支払条件など、取引方法を入力します。 入力した内容は伝票に印字されます。

項目名称	説明
支払方法 （発注入力は なし）	補助分類登録画面の支払方法登録で指定した内容から選択できます。 選択した内容は伝票に印字されます。
使用目的 （発注入力は なし）	補助分類登録画面の使用目的登録で指定した内容から選択できます。 売上分析表では使用目的別の集計が可能となります。
ファイル	伝票に関連するファイルを指定できます。参照ボタンからファイルを指定します。 表示されたファイルのパスをクリックするとファイルを表示できます。 ファイルのパスを削除したい場合はクリアボタンをクリックします。

5） 明細情報（明細部） 項目の説明

※受注、発注ともに内容はほぼ同じです。以下、受注入力を例に説明します。

入力画面の下部にある明細情報欄の商品が指定できる箇所を明細部と呼びます。
明細部には、受注内容を商品ごとに1伝票256行まで入力することができます。
各行を入力すると、画面下部の計行に各項目の総計が自動計算され表示されます。



項目名称	説明
行No	先頭から自動で行Noが付番されます。 256行まで入力可能です。 「＊」マークの行は、まだ何も入力されていない行です。
削除 （ボタン）	入力した行を削除する場合、この削除欄にマウスでチェックを入れます。 （チェックを入れると行全体がグレー背景になります） その状態で伝票登録するとチェックを入れた行が削除されます。
伝区 （伝票区分）	以下の伝区より選択します。 伝区は現掛区分の設定によって現金/掛/前受に変わります。 以下では掛売の場合で説明します。現金/前受の場合は読み替えてください。 現金/前受の場合は読み替えてください。（掛受注→現受注など） ・掛受注 ・・・ 通常販売する商品を指定する場合に選択します。 倉庫を指定している場合、有効在庫をおさえることができます。 ・掛値引 ・・・ 商品ごとの値引きを入力する場合に選択します。 受注原価は入力できません。 単価を入力すると自動でﾏｲﾅｽ表示になります。 在庫の増減には関係ありませんが在庫管理が必要な商品や 倉庫別移動平均原価を採用している場合は倉庫の指定が必要です。 明細合計に対しての値引きを入力する場合は値引用商品を 予め登録しておき、それを使用します。 ・掛経費 ・・・ 経費を入力する場合に選択します。 受注原価、倉庫は入力できません。 諸経費を入力する場合、「送料」などの商品を商品マスタに登録しておき 商品に「送料」を指定します。 諸経費で入力された商品は在庫増減されません。（倉庫選択不可） ・摘要 ・・・ 摘要行を入力する場合に選択します。 品名、品名2と備考のみ入力できます。 摘要行は売上伝票にコピーされません。 品名欄でF4キー押下にて、摘要マスタから 選択できます。その場合、品名に摘要名が設定されます。 ・構成 ・・・ 掛売上の行でセット品を指定すると、構成品登録している構成品が （受注入力のみ） 自動的に表示されます。 行の削除/挿入を行ったり、直下行の伝区を「構成」に変更することで 今回取引分のみ構成品を変更することもできます。 構成品の金額、原価は指定できません。 上行が失注チェックONまたは削除チェックONの場合は新しい構成品を 追加することはできません。

項目名称	説明
	未払金管理オプションを利用している場合のみ。仕入入力のみ ・諸経費　・・・　諸経費の未払金を仕入計上する場合に選択します。 伝区に諸経費を指定した場合、その行には諸経費の商品のみ指定できます。（商品登録で諸経費区分がチェックONの商品） 諸経費行の仕入金額は買掛金ではなく未払金で計上されます。 現掛区分が「掛」の仕入伝票のみ「諸経費」伝区を指定できます。 未払金には仕入リレーされて仕入計上した段階で計上されます。 発注伝票の登録のみでは未払金は計上されません。
出荷	受注明細の出荷状況を表示しています。 受注Noを指定しての売上（リレー売上）を行うと出荷状況が変わります。 ・「未納」　・・・　まだ1つも売上されていません。新入力時は全て「未納」です。 ・「一部」　・・・　売上されていますが完納にはなっていません。 ※売上時に数量「0」で入力されている場合も「一部」と表示されるの注意。 ・「完納」　・・・　すべて売上されて完了している状態です。 Point ・未納と一部は受注残の扱いとなります。 ・売上伝票で受注残数より少ない数を入力した場合、自動的に未納になります。 ただし売上明細の「出荷」をクリックして手動で修正することにより受注残＜売上数の場合でも「一部」の状態にすることができます。 反対に受注残＞売上数の場合でも「完納」にすることができます。 ・出荷状況の印字箇所はありませんが、受注明細表で受注残数を出力することができます。
商品ｺｰﾄﾞ	受注した商品コードを入力します。伝区が「摘要」の場合以外は入力必須です。 コードを直接手入力するか、SapceまたはF4キーにてマスター覧より選択することもできます。 Point ・商品ｺｰﾄﾞを入力すると、商品マスタに設定されている「倉庫」「品名」「品名２」「入数」「単位」「仕入先」「商品種別」が初期設定されます。 ・運用設定の登録内容によってはSpaceキーで商品参照すると伝票の得意先＝商品マスタの得意先　の商品を表示することができます。 商品を主に決まった得意先に売り上げる場合に使用します。 ・受注入力ではセット品指定により構成品の同時出荷ができます。 セット品の詳細は業務マニュアルの「セット品運用概要」をご確認ください。
品名	受注する商品名を入力します。 商品ｺｰﾄﾞ選択時に商品マスタの商品名が初期表示されます。 表示後の訂正も可能です。 伝区が摘要の場合は任意文字列を入力します。 Point ・品名は空白でも伝票登録可能です。 ・変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。
品名２ （型番、規格）	受注する商品名の補足情報を入力します。 商品ｺｰﾄﾞ選択時に商品マスタの品名２が初期表示されます。 表示後の訂正も可能です。 伝区が摘要の場合は任意文字列を入力します。 Point ・品名２は空白でも伝票登録可能です。 ・変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。 ・品名２のタイトル名称は運用設定にて変更できます。

項目名称	説明
倉庫	商品の出庫元倉庫を選択します。 伝票担当者が所属する事業所の倉庫を初期表示します。 SapceまたはF4キーにて表示される倉庫参照から選択できます。 また、F2キーにてその明細行の商品、倉庫で予定在庫一覧表が表示されます。 F3キーにてその明細行の商品、倉庫で商品予定表が表示されます。 伝区が値引/経費/摘要以外は指定します。 Point ・商品の在庫数管理は全て倉庫別に行っています。 ・在庫管理しない商品も倉庫を指定してください。
受注数量	受注数量を入力します。 また、F2キーにてその明細行の商品、倉庫で予定在庫一覧表が表示されます。 F3キーにてその明細行の商品、倉庫で商品予定表が表示されます。 Point ・売上が発生すると受注数量は変更できなくなります。 ・数量の入力は必須ではありませんが、在庫管理する場合は数量を入力しなければ 反映することができません。 ・数量の少数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
種別	商品マスタに設定している商品種別が初期表示されます。 表示後の変更も可能です。 Point ・選択変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。 ・種別によって初期設定される単価が変わります。 レンタル・・・商品マスタのレンタル単価が採用されます。 (どのレンタル単価が採用されるかは得意先マスタ「レンタル単価種類」の 設定によります) ただし、商品別期間単価を登録している場合は商品別期間単価が優先 されます。 販売・・・商品マスタの販売単価が採用されます。 (どの販売単価が採用されるかは得意先マスタ「販売単価種類」の 設定によります) ただし、納入先別数量単価や得意先別単価を登録している場合はそちらが 優先されます。 滅損・・・商品マスタの滅損単価が採用されます。 ・種別によって初期設定される原単価が変わります。 レンタル・・・商品マスタのレンタル単価(標準原価単価)が採用されます。 販売・・・商品マスタ「販売原価計算法」の設定にしたがって原価が設定されます。 滅損・・・0が初期表示されます。 ・返却入力はレンタルの商品のみ行います。販売などの商品の返却入力は出来ません。 ・セット品の親レコードが「販売」「滅損」の場合、子レコードも同じ種別が設定され 変更できません。 ・セット品の親レコードが「ﾚﾝﾀﾙ」の場合、子レコードの種別は自由に設定できます。 ※ 仕入伝票では商品別期間単価は採用されません。レンタル期間によって 単価が変わる場合は都度単価を入力してください。

項目名称	説明

単位

数量の単位を入力またはリストから選択します。
リストには単位マスタに登録されている内容が表示されます。
商品マスタの登録内容が初期表示されますが、変更できます。

Point
・変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。

受注原単価

受注原価の単価を入力します。
伝区が受注の場合のみ入力可能です。
入力内容にしたがって初期設定されますが手入力による訂正も可能です。

Point
・売上原価計算法に倉庫別移動平均を指定している場合、「受注日」「倉庫」
を変更したとき再設定されます。
最終仕入を指定している場合は「受注日」を変更したときに再設定されます。

・種別によって初期設定される原単価が変わります。
レンタル・・・商品マスタのレンタル単価(標準原価単価)が採用されます。
販売・・・商品マスタ「販売原価計算法」の設定にしたがって原価が設定されます。
減損・・・0が初期表示されます。

・伝区が「構成」の場合、原単価、原価は設定できません。

単価

受注単価を入力します。伝区が摘要の場合は入力できません。
商品種別と得意先マスタの単価種類の設定に応じて初期表示される単価が
決定します。

SpaceまたはF4キーにて単価情報画面が表示されます。
単価情報画面には商品マスタに登録されている単価と得意先商品別単価、数量別売上
単価が表示されます。この一覧から単価を選択し直すこともできます。
得意先マスタに設定されている単価掛率も表示されます。掛率は変更できます。
ただし、商品マスタの掛率要否が「不要」の場合、掛率は表示されません。

商品種別によって単価情報画面は変わります。

レンタルの場合
商品別期間単価マスタに登録されている期間がリストに表示されます。
採用単価＝基本単価×得意先掛率　です。

商品別期間単価マスタが
「期間単価」で登録されている場合

商品別期間単価マスタが
「期間掛け率」で登録されている場合

必要に応じて
①単価を選択する
②期間を変更するする
③得意先掛率を変更する
を行います。
OKボタンをクリックすると明細行に

項目名称	説明

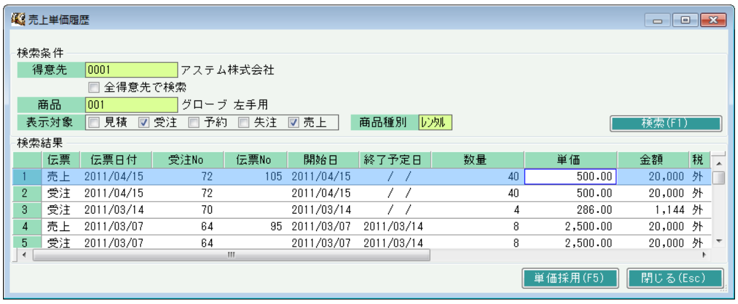
販売、減損の場合
　商品マスタに登録されている単価および得意先別商品単価、数量別売上単価（登録している場合）が表示されます。

必要に応じて
①単価を選択する
②得意先掛率を変更する
を行います。
OKボタンをクリックすると明細行に

該当する得意先と商品で数量別売上単価を登録している場合、数量別単価が表示されます。

Point
・単価の少数以下桁数は、運用設定で変更できます。
・伝区が「構成」の場合、単価、金額は設定できません。

F3キーにて売上単価履歴が表示されます。
初期表示では得意先・商品・種別が入力中の伝票と同じ受注、売上を表示しますが条件を変更して再検索できます。
「単価採用」ボタンをクリックすると選択中の行の単価が明細行に設定されます。



受注原価

受注数量×受注原単価が表示されます。手入力も可能です。

少数点以下の端数は、得意先マスタの金額端数区分の設定が採用されます。（切捨、切上、四捨五入）

Point
・受注金額と受注原価から伝票全体の粗利と粗利率が計算され、
　計行に表示されます。
・伝区が「構成」の場合、原単価、原価は設定できません。

受注金額

受注数量×単価の値が表示されます。
マイナスの入力も可能です。

Point
・数量や単価を入力せずに受注金額のみ手入力することもできます。
・伝区が「構成」の場合、単価、金額は設定できません。

備考1，2

明細行の備考として任意の文字列を入力できます。

項目名称	説明
仕入先 (発注入力 は無し)	同時発注する場合は仕入先を指定します。 商品マスタの仕入先が初期表示されます。 SapceまたはF4キーにてマスター覧より選択できます。 新規伝票登録時に仕入先を指定しているとその仕入先に売上明細を コピーして仕入入力画面を表示します。(同時発注入力)
受注No 受注行No (受注 入力は無し)	発注伝票と紐付ける受注Noおよび受注行Noを指定します。 SapceまたはF4キーにて受注明細検索画面より選択できます。 **Point** ・ヘッダ部で受注Noを指定した場合、初期表示される明細には受注Noおよび受注 行Noが初期表示されています。 明細行を追加した場合は追加した直前(上)の行の受注No、受注行Noが初期表示 されます。 ・ヘッダ部で受注Noを指定しなくても明細の受注No、受注行Noを設定できます。 ・受注No、行Noを設定しておくと発注伝票を仕入計上した際に受注No別原価表にて受注 仕入対比が表示され受注Noまたは受注行Noごとの仕入原価を把握することができます。 ・受注NoとひもづけたくないI場合は受注NoでDeleteキーを押下すると消すことができます。
セット、 構成数 (発注入力 は無し)	セット品を指定すると、完成品行のセットに「セット」と表示されます。 構成数はセット品を構成する行(伝区が「構成」)のみ入力できます。 構成数を変更すると、「構成数×完成品の数量」が構成品の数量にセットされます。 構成数にはセット品登録で登録した構成数が初期表示されますが、変更可能です。 ただし、返却が発生したあとは変更できません。
期間 (発注入力 は無し)	構成品を除くレンタル明細の場合に、各明細ごとに採用している期間名が表示されます。 期間は、各商品ごとに採用される期間掛率マスタの期間と、基本情報で指定した 開始日～終了日で計算された期間で条件一致する期間名が表示されます。 (基本情報の期間名ではなく、期間掛率マスタで設定されている期間名です) 単価情報画面を表示して期間を変更すると、表示される期間も変更となります。 期間名は明細ごとに記憶され、伝票類に印字することもできます。
税区分	明細毎に税区分を指定できます。リストより選択します。 商品マスタの設定値が初期表示されます。 **Point** ・リストに選択したい税区分がない場合、「システム管理」-「消費税率登録」より 税区分を登録できます。
マーク (ボタン)	マークをマウスでクリックし、チェック状態にすることで 明細行にマーク(印)をつけて、明細表出力時に絞り込みができます。
メモ	明細メモを入力できます。

6） 明細情報（計行） 項目の説明
※受注、発注ともに内容はほぼ同じです。以下、受注入力を例に説明します。

明細部の下に横並びに表示されている箇所を、計行と呼びます。
計行では伝票時外税の得意先の外税額のみ手入力できます。
その他入力できる項目はありません。明細部の情報を集計して、その結果を表示します。

項目名称	説明
レンタル計 販売計 その他計	入力中の伝票の商品種別ごとの入力金額が表示されます。
粗利益率	伝票全体の 　粗利益＝受注金額計－受注原価計、率＝（粗利益／受注金額計）×100 で計算され表示されます。 画面には下8桁まで表示されます。 Point ・粗利益及び率には現在明細行に入力中の金額も反映されます。 ・率の少数点以下は四捨五入となります。
金額計	伝票全体の受注金額合計が表示されます。
税額	伝票毎外税の得意先の場合、「外税額」と表示され、伝票全体の消費税額が 計算され表示されます。表示されている消費税額を手入力で修正することも可能です。 画面には下7桁まで表示されます。 Point 例） 100円の商品を受注し、外税が5円だった伝票の税額を、4円に修正して 登録した場合、受注明細表には以下のように印字されます。 変更前・・・ 行1 〇〇商品 受注金額 105円 ⇒ 税込出力で105円と表示 変更前・・・ 行1 〇〇商品 受注金額 105円 行256 消費税 受注金額 -1円 ⇒ 行No256の消費税伝票が自動で作成され、修正差額分を 受注金額にセットして、端数調整する。 伝票毎内税の得意先の場合、「内税額」と表示され、伝票全体の消費税額が 計算され表示されます。消費税額の訂正はできません。 請求時外税の得意先の場合、税額の欄は表示されません。 伝票毎外税は以下の通りです。 伝票毎外税・・・明細行毎に消費税を計算（調整税）しますが伝票税は伝票の 合計金額で算出します。
合計金額	金額計＋税額 の値が表示されます。

7） 受注伝票更新におけるその他注意事項
※受注、発注ともに内容はほぼ同じです。以下、受注入力を例に説明します。

修正
・修正で伝票を開いた場合、どの項目も修正していないと伝票登録はできません。
・修正で伝票を開いた場合、出荷区分が「一部」または「完納」の明細行は品名1，2と備考欄のみ修正可能です。
・得意先の使用区分を「売上停止」「使用しない」に設定している場合は更新ロックがかかり、更新できません。

削除
・出荷区分が「一部」または「完納」となっている行が1行以上ある受注伝票は削除できません。
先に売上伝票の削除が必要です。（売上を削除すると受注明細は「未納」に戻ります）
※発注入力の修正の場合
・伝票を修正登録した場合、発行済みだった注文書は未発行状態に戻ります。
（即時印刷機能が有効の場合、再度即時印刷できます）

8） 予定在庫一覧

・新規または修正で伝票登録後に予定在庫一覧が表示されます。
もしくは、倉庫欄、数量欄でF2キー押下すると表示されます。

・在庫数には関係ないため、表示される明細は値引・経費・摘要を除きます。

・伝票登録後の場合は、対象となる全行の商品が表示されます。
ただし、運用設定の「予定在庫をチェックする」が「しない」の設定の場合は表示されません。
また、入力していた数量も含めた結果の予定在庫で表示されます。

・倉庫、数量欄でF2キー押下して表示した場合は、該当行の商品のみ表示します。
入力していた数量は予定在庫数には含まれません。
商品がセット品の完成品または構成品だった場合、同一セット内の商品すべて表示されます。

・返却日指定なしだった場合は1週間先までで表示されます。

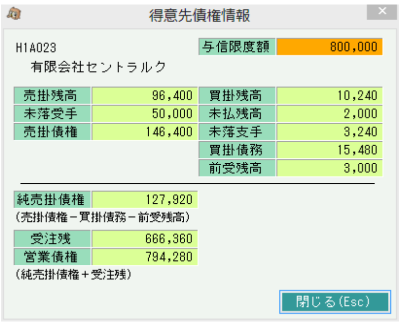
表示後、検索条件を変更して再検索することも可能です。
画面の上段は貸出数、下段は営業在庫数（予定在庫数）で表示されます
一覧の仕様は「日別在庫一覧」と同様ですので、日別在庫一覧のマニュアルでご確認ください。

9） 与信チェック

受注入力では、運用設定の設定により伝票更新時に与信チェックが行われます。

与信限度額チェックをする ･･･ 登録時に得意先マスタに登録された与信限度額をオーバーしていないかチェックを行います（警告、エラーが設定されている場合）
営業債権で与信チェックをする ･･･ 与信限度額をチェックをするとき、受注残を含めるか含めないかを指定します。

与信チェックされる内訳金額は、画面上部メニューの「その他」-「得意先債権情報の表示」から確認できます。



得意先債権情報画面

Point

・ 消費税は全て調整税で集計されます。
・ 買掛残高、未落支手、買掛債務は得意先マスタの「相殺仕入先」が設定されている仕入先に対する金額を集計します。

・ 発注入力には与信チェックはありませんが、「その他」-「仕入先債務情報の表示」からほぼおなじ画面が表示されます。
・ 仕入先債務情報では、伝票日付（発注日）時点の、一括税が集計されます。
・ 仕入先債務情報に表示される売掛残高などは、仕入先マスタ.相殺得意先に設定されている得意先」の金額を集計しています。

項目名称	説明
与信限度額	与信限度日までの与信限度額 （彳粗利益＝受注金額計－受注原価計、率＝（粗利益／受注金額計）×100 臨時の与信限度日が設定されている場合、 与信限度日→臨時の与信限度日、 与信限度額 → 通常＋臨時の与信限度額 臨時の与信限度日が設定されていない場合は 与信限度日→通常の与信限度日、 与信限度額 → 通常の与信限度額）
売掛残高	与信限度日までの売掛残高金額 （調整税で集計）
未落受手	伝票日付（受注日）時点で手形期日が未到来の手形入金額 **Point** 伝票日付（受注日）≦期日 の場合、未落ちと判定されます。
売掛債権	売掛残高＋未落受手
買掛残高	与信限度日までの得意先マスタ.相殺仕入先の買掛残高 （調整税で集計）

項目名称	説明
未払残高	与信限度日までの得意先マスタ.相殺仕入先の未払残高 （調整税で集計）
未落支手	伝票日付時点での、得意先マスタ.相殺仕入先の未落支払手形
買掛債務	買掛残高＋未払残高＋未落支手
純売掛債権	売掛債権－買掛債務 Point 運用設定が以下の設定の場合、 純売掛債権＞与信限度額になると背景が赤表示されます。 与信限度額チェックをする → 警告、またはエラー 営業債権で与信チェックする → しない
受注残	登録済みの全受注残金額 （調整税で集計） Point 受注日は関係ありません。登録されている全受注伝票が対象です。 税込み金額です。税処理区分が「請求時外税」の場合、調整税（みなし税） が含まれます。
営業債権	純売掛債権＋受注残金 Point 運用設定が以下の設定の場合、 営業債権＞与信限度額になると背景が赤表示されます。 営業債権で与信チェックする → する